

著作奨励賞

安田 慎『イスラミック・ツーリズムの勃興 宗教の観光資源化』

(ナカニシヤ出版 2016年4月)

<講評>

本書は、イスラミック・ツーリズムの勃興を、シリア・シリア派参詣地における宗教観光の発展から解き明かそうとするものである。著者は、「イスラームの価値に基づいた観光活動」を指すイスラミック・ツーリズムが、21世紀になって世界各国で注目されるようになってきている状況のなか、丁寧な先行研究および史料の検討に加え、シリア・アラブ共和国を中心とした地域で、断続的ではあるが合計1年8ヶ月のフィールド調査を実施した。本書は、それらの成果を踏まえ2012年3月に京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科に提出した博士論文「現代イスラームにおける宗教ツーリズムーシリア・シリア派参詣事業を中心に」を大幅に加筆・修正したものである。

本書においては、宗教と観光の関係性を移動を伴う「巡礼」という枠組み以上のものとしてとらえる視座を、とくにイスラームとの関係において示している。また、イスラームとツーリズムが融合していく過程で、旅行会社の役割など産業的な側面にも注目しながらも、宗教的な価値観でその行為が再定位されていくプロセスを史料とフィールドワーク資料に基づき、私事化と社会化という概念を用いて、動的に描こうとしている。

本書は、単にムスリム観光客に対する対応をどのようにすればよいかといったような切実ではあるが限定的な理解にとどまり誤解されがちな従来の研究とは異なり、イスラームとツーリズムの関係性について、ムスリム当事者およびその内部社会に立脚し、彼ら自身がグローバルな宗教や観光市場とコミュニケーションしていくプロセスやコンテクストに注目した点が評価できる。

ただ、その主体的思考に関する考察や地域研究としてのコンテクストへの配慮が行き届いているが故に、観光行動そのもの、さらには観光における消費行動の意味など、観光的なトピックに限定して深く論じてもらいたいという期待も生じる。ただ、これは今後の著者の研究の広がりへの期待につながるものとはいえ、本書の価値を減じるものとはいえないであろう。

よって、本書は、著作奨励賞に値するものと考えられる。